

いつだって好奇心 手を伸ばせばそこに本

子どもの読書活動

学校・園の取り組みを紹介します④

園社会教育課 ☎・☎(582)1142 ☎(581)2733



1ヵ月に読んだ書籍の平均冊数(単位:冊)

	平成26年		平成28年		令和元年	
	5月	5月	11月	5月	11月	
小学4~6年生	7.6	8.1	9.4	9.5	8.6	
中学生	2.5	4.0	3.7	4.0	3.8	

1ヵ月に1冊以上本を読んだ割合(単位:%)

	平成26年		平成28年		令和元年	
	5月	5月	11月	5月	11月	
小学4~6年生	96.1	96.3	95.1	98.6	96.7	
中学生	66.7	89.9	87.2	92.8	89.1	

～子どもの読書活動 推進の取り組み～

市では、平成27年度から「守山市子ども読書活動推進計画第2次計画」に基づき、毎年5月と11月に読書量調査を行っています。左の表のとおり、第2次計画がスタートする前の平成26年度に比べ、平均読書冊数、本を読んだ割合ともに増加が見られ、読書活動が推進されていることが分かります。

市立小中学校では朝読書や読書週間の取り組みを行い、子どもたちが普段から本に触れられるようにしています。また、図書委員によるおすすめ図書の紹介や、国語科や総合的な学習などの時間を活用した調べ学習など、本に興味を持ち身近に感じられるような工夫した取り組みも行っています。

読書活動は、子どもにとって、言葉を学び、表現力や感性を養い、思いやりのある優しい心を育むとともに、ものの見方や考え方を深める重要な活動です。そのような読書の習慣を子どもたちが身に付けるためには、学校・園に加えて、家庭でも本に触れる機会を増やすことが重要です。

「家族で図書館へ本を借りに行く」「家庭で読書タイムを作る」など、子どもにとって本がいつも手に取れる位置にある、本に触れる時間がある、そのような環境づくりについて、ご家庭でもぜひ取り組んでください。



佐川美術館
アートコラム③

フランス RAKU茶碗?

学芸員 佐川美術館
松山 早紀子



桃山時代(16世紀後半)に樂茶碗を造り出した初代長次郎以来、轆轤や型を用いず手捏ねで成形し、篋で削り上げて形を造り、屋内の小規模な窯で焼き上げられてきた樂焼の技法は、ほかに類のない独特なものです。伝統的な樂茶碗の陶土は、樂家で代々伝えている「樂家の土」を使用しています。15代樂吉左衛門・直入は、祖父の12代弘入が採取した100年近く保存し寝かせた土で制作しています。当代吉左衛門も子孫のために土を集めて保存しています。黒樂茶碗の黒の釉薬は、京都・鴨川上流の加茂川石を砕いたものです。

常に斬新な感覚を示す造形美の世界を表現し続けている直入が、フランス・リモージュの白土、ルビニヤック村で掘り出した赤土、スペインの黒土を使い、暖炉のクヌギ灰、フランスの鉱石、古い銀貨から作った釉薬を掛け、穴窯やガス窯、電気窯で焼いた茶碗が「フランス RAKU茶碗」です。土、窯、釉薬をフランスで調達して制作されたメイド・イン・フランスのフランス RAKU茶碗は、楽しい冒険に満ちています。

4月4日(土)～8月30日(日)の期間、樂吉左衛門館では、京都・樂家で焼かれた樂茶碗と、フランス・ルビニヤック村で焼かれたフランス RAKU茶碗を展覧します。この機会に、樂茶碗とフランス RAKU茶碗の違いを佐川美術館でご覧ください。